

99歳で元気に働く

昭和の映画スター、俳優の辰吉・梅宮辰夫さんが2019年12月12日、慢性腎不全で亡くなりました(81歳)
長年にわたってがんを患い、6度の手術をし、闘病生活をしながら俳優業を続けていたそうです
最後の言葉は「つりがしてえ」だったそうです

人は生きて、元気に自分の好きなことが出来るだけで幸せなのです。
自分の身体に、健康に、周りの人たちに感謝しましょう！

70代で介護施設に入る人達がいる一方で、90歳を超えても元気に活動したり、働いている人も多数います。
「人との触れ合い」は食事・睡眠・歩きと同様に生きるために欠かせない要素です。
働くことは外に出て季節を感じ、人と触れ合う機会も多く、自分の健康に大いにプラスしていると思います。
生涯、現役の意気込みで生きようではありませんか？
仕事に、ボランティアに、自分の好きな趣味に……

最高齢 99歳のビューティーアドバイザー

99歳にしてなお現役で、大手化粧品会社「ポーラ」の訪問販売員として働く女性がいる。継続的な販売実績があることなどから、「最高齢のビューティーアドバイザー」としてギネス世界記録に認定された。



顧客の女性と談笑する福原キクエさん(左)
||ポーラ提供

「本当に夢のようで光栄。ひとえにお客様と家族の支えのおかげです」。広島市内で1日におこなった認定式で、認定証を受け取った福原キクエさん(99)は広島市南区にこう喜びを語った。

ポーラの訪問販売員はそれぞれが会社と契約を結ぶ「個人事業主」のため、定年はない。福原さんは、顧客宅を訪問して美容のアドバイスをしながら商品を紹介・販売する「ビューティーディレクター(BD)」として働く。同社では長くBDとして働く女性が多く、2012年には福原さんから90歳以上の販売員11人を紹介した「美婆伝」(講談社)も出版されるほどだ。

島根県出身。1945年8月6日、爆心地から北へ約1・3kmの運送会社で被爆したが、軽傷で済んだ。戦後に結婚。夫と暮らす社宅にやってきたポーラの販売員に誘われ、60年に自身も訪問販売員に。モットーは

息子の運転で顧客訪問 今も月10件販売

「自分で試すと」「無理強いしない」。一人ひとりに本当に必要なものを見極め、薦めてきた。「数字をとれても、お客さんが美しくならなくちゃ意味ない」。杖や介添えがないと歩くのも一苦労だが、息子の運転する車や、時にはタクシーで、今も日々顧客宅を訪問。肌の悩みについて電話で相談を受けることもある。最高齢の顧客は96歳で、月に約10件は販売実績がある。長唄など趣味の仲間たちにも声をかけ、顧客は増え続けている。「お客さんはもうお友達みたい」。あなたが来てくれるのが楽しみ」と言ってくれる人も少なくないという。

元気の源は「お肉」だ。9人いる30・40代の孫たちの誕生日会が毎月のようにあり、焼き肉やしゃぶしゃぶを食べるのが恒例という。今後も「お客様がいる限り続けるわ」と目を輝かせていた。

(成田愛恵)